

すみ かわ よし こ
澄川 美子さん (35歳)
営農地:宮若市竹原
主な農産物:花(トルコギキョウ、
アスター)、水稲



知らない世界、でもパートナーに恵まれました

● 就農のきっかけ

結婚相手が専業農家でした

澄川さんは、都市部に生まれ育ち、農業に接する機会がほとんどなく育ったそうです。小学校の田植の体験学習も澄川さんの学年だけたまたまなかったとのこと。看護学校で学んだのち看護師として9年間働いていた間も同様で、結婚するまでは農業に対するイメージは特には持っていなかったそうです。

農業を始めたのは、結婚相手が専業農家であったので、ごく自然に一緒にすることになったそうです。

● 私の今～就農後の道のり～

子育て・農作業の両立

農業を始めて、かなり体力的にきつかったのでは？との問いに、看護師も体力勝負であったので「特に農作業がきついとは感じなかった。」ただ、「今までにこんなに汗をかいたことがない。」ほど汗をかいたそうです。さぞかしバテってしまったのでは？「いえ、食べ物がおいしいので…」とニコリ。ハウス内の作業は腰・膝に負担がかかるのですが、お義父さんが作業椅子を作ってくれるなど、家族のサポートにも恵まれているそうです。

結婚して約6年、今は3人のお子さんの子育てに忙しい毎日ですが、お子さんが1人の頃までは、夫と一緒に品種展示会に参加したり他県へ視察に行っていました。

今では3人のお子さんの子育てに忙しく、なかなか外へ勉強にはいけない毎日ですが、子育てのベテランであるパートナーたちのおかげで不安が無く子育てができています。

● これからの夢、目標

家族から経営のパートナーへ

夫やお義父さんは、よい情報があれば忙しい時期でも「パッと」家を空けて見に行くそうです。これはその間の作業をお義母さんがしっかり管理できているからできること。澄川さんはまだまだ

子育てで真最中で、農作業においてはパートさんと仕事内容はあまり変わらないようですが、「いずれは義母のように仕切っていけるようになりたいですね。」と語っていました。

また、以前種苗店などで夫から「どの花がいい？(それを試作するから)」と聞かれて、「これ。」と選んだ品種が既に種が無い、ということが数度あったそうで、「いつかは自分の感性で選んだ品種の栽培がしたい。」そうです。

それともうひとつ、「子供たちがもう少し大きくなったら家族旅行なんかもしたいですね。」



プロフィール

■家族構成/本人、夫、子3人、義父、義母 ■営農年数/約6年
■耕作(経営)面積/4.5ha ■販路/JA共販

就農を考えている女性へ

会社員よりもストレスは感じません。農業は人とのかわりあいの中でおこなうものです。なんでも一人で抱え込まずに周りに頼れる部分は遠慮しないで。ただし、色は少し黒くなりますよ。